

NGO 外務省定期協議会 2011 年度 連携推進委員会の振り返り

連携推進委員会 委員 岡島克樹
(関西 NGO 協議会 提言専門委員)

<2011 年度の委員会活動全体の振り返り>

2011 年も、慣例化した政務三役による出席のなか、情報共有と議論が活発に行われ、結果、意義ある変化が見られた 1 年であったと評価している。

とくに日本 NGO 連携無償資金協力の予算増額や重点課題の範囲拡大は MDGs 達成に直接資する ODA を求めてきた NGO としても大いに歓迎できるものである。また、草の根・人間の安全保障無償資金協力における用途の柔軟性や案件審査プロセスの透明性の向上、国別の予算配分見直し、NGO によるフォローアップ調査の実施など、多岐にわたる改善が外務省と NGO との協力のなかでなされたことも特筆に値する。

<2012 年度以降に取り組むべき課題>

一方、以下の点は、前年度委員会会議の時間的・時期的な制約があり、十分な議論が出来ておらず、今年度に検討する必要がある。

【連携に関する政策】

『開かれた国益の増進—ODA のあり方に関する検討』に吸収された『NGO 能力強化・連携ビジョン～NGO との戦略的連携・活用に向けた 5 ヶ年計画～』が策定から 5 年を迎えたことから、全体をより包括的に議論し、外務省・NGO 連携に関する共通理解をさらに堅固なものにしていくことが求められる。議論されるべきポイントには、たとえば、外務省・NGO 連携の意義や中長期的な方向性、地域に根差した活動を行う NGO と外務省との連携が含まれる。

【連携のための事業スキーム】

日本 NGO 連携無償資金協力については、その予算配分のあり方や NGO ピアレビューの実施方法について検討することが求められる。また、アフガニスタン市民社会ファンドについてもさらに詳細に議論を進めていく必要がある。

【NGO の活動環境整備】

環境整備事業の更なる充実化に向けて、議論を行うことが求められる。とりわけ、NGO 長期スタディプログラムは、開始から 5 年間が経ったのでふりかえりを行いたい。また、能力強化策としての外務省・NGO 間の人材交流についてもその進め方を検討する必要がある。

以上